

## 情報提供／国内連携

国際交流基金は主な3つの分野での事業のほかに、国内外の国際文化交流についての情報提供や、企業と連携した事業展開、国際交流について大学と共同研究を行っています。ここではそれらの活動について、そして京都支部の活動を報告します。



JFIC ラウンジ

撮影：増田智泰

### 情報センター

## ウェブマガジン「をちこちMagazine」と情報提供イベントを開始

情報センターは、プレスリリースなどを発信する広報・メディアアリレーション業務を担うほか、国際文化交流についてのトピックを提供するウェブマガジン「をちこちMagazine」や年次報告書の発行、ウェブサイト、ブログ、ツイッター、メールマガジンなどによる情報発信、国内連携事業、国際交流基金賞や地球市民賞などの顕彰事業（P.8参照）、ライブラリーとイベントスペースで構成される情報発信拠点「JFIC (Japan Foundation Information Center) 通称：ジェイフィック」の運営、大学生などの本部への見学・訪問受入れも担っています。

日本で唯一の国際文化交流専門誌『をちこち（遠近）』を受け継ぎ、2010年8月にはウェブマガジン「をちこちMagazine」が公開されました。毎月企画される特集記事のほか、ウェブサイト上のさまざまな報告記事やリソースが集まる読みもののポータルサイトとしての機能と、2004年から2009年までに発行された『をちこち』記事のデジタルアーカイブ機能を兼ね備えています。2010年は「これからの国際文化交流」「越境する文学」「音楽が紡ぐ出会い 日本×アフリカ」「表現としてのマンガ」「今を生きる文化遺産」「日本映画に魅せられた世界の映画人」「世界がであうBUTOH」といった特集を毎月掲載しました。

また、JFICを活用したイベントをあらたに開始しました。在京大使館の文化担当官を対象に日本の文化環境について情報提供を行った「カルチュラル・ミーティング・ポイント」、ギタリストの大萩康司氏と荘村清志氏を迎えてのトークセッション&ミニライブ「ギタリストが見る／見た世界」、若手アーティストを対象とした「AIR! AIR! AIR! 海外でステップアップを目指せ」など幅



[左] 大萩康司氏(左)と荘村清志氏による派遣報告会

[右] ウェブマガジン「をちこちMagazine」 <http://www.wochikochi.jp/>

広い対象へ向けたイベントを実施しました。

また、国内連携事業として、日本のアーティスト・イン・レジデンスに関する情報を総合的に発信するウェブサイト「AIR\_」のリニューアルを記念し、ミニフォーラム「アーティスト・イン・レジデンスと都市の創造拠点」を実施しました。

JFサポーターズクラブは2009年度に募集を終了しましたが、1月末のサポーターズクラブ制度終了までの間、会員および一般の方を対象に、メールマガジン「JFナビゲーター」の配信や、「サポーターズクラブ通信」を発行するとともに、トークショー「日本映画の巨匠・木下恵介と中国」、ロシア・キルギス・ウズベキスタンへ派遣された切り絵作家の報告会とワークショップ「切り紙と見た景色」など、計5回のイベントを実施しました。

JFICライブラリーでは、所蔵する貴重本などを紹介するミニ展示を行いました。2010年6月から9月までは、「明治・大正時代の日本ガイドブック」、2010年10月から2011年1月までは「明治時代の写真集」というテーマで毎月資料を展示し、来訪者が当館所蔵の貴重本に触れる機会を提供しました。

## デザインを通じて海外の若者と日本の交流を促進

事業開発戦略室は、2010年度、日本と韓国の未来を担う若者のより深い交流を目的として、「日韓学生パッケージデザイン交流プロジェクト（通称：ハッピー・キューブ・アワード）」を実施しました。この事業は日本パッケージデザイン協会、韓国パッケージデザイン協会、ロッテ、大日本印刷をはじめとする団体、企業、個人の協力により開催され、日韓のデザインを学ぶ学生を対象に、「菓子」「飲料」「化粧品・トイレタリー」の3部門でデザインを公募、入賞作品の展示会を日韓両国で開催、さらにデザインフォーラムや韓国人学生を日本へ招いての研修を行うものでした。コンテストには日韓合わせ560作品の応募があるなど反響も大きく、日韓の学生が企業やプロのデザイナーと交流するなどのプログラムの結果、「プロに認められたことが自信に繋がった」「日本と韓国のデザインの相違点などが理解できた」等のコメントが寄せられました。この事業で築いたつながりを継続するために、2011年度にはフォローアップ事業を実施の予定です。

また、2009年度に続き「第2回学生のための国際ふろしきデザインコンテスト」を実施しました。「自国と日本の融合」をテーマに、海外9ヵ国（ドイツ、インドネシア、オーストラリア、カナダ、米国、ブラジル、ロシア、ベトナム、シンガポール）から応募があり、最優秀



「日韓学生パッケージデザインコンテスト」の入賞作品展示会

賞および優秀賞に選ばれた計4点のデザインは国際交流基金広報グッズ「JFオリジナルふろしき」として製品化されました。この複数国を対象としたコンテストとは別に、2010年がトルコにおける日本年であったことから、「トルコ・日本の学生によるふろしきデザインコンテスト」も実施。「トルコと日本の融合」をテーマとし、応募作品のなかから最優秀賞および優秀賞の2作品を製品化しました。

事業開発戦略室はこれら事業のほか、海外における日系企業の社会貢献活動を通じた国際文化交流の推進を行っています。2010年度には、前年度に実施した中国およびベトナムでの日系企業の社会貢献活動の調査報告書を作成しました。

### 国際交流共同研究センター

## セミナー・シンポジウムで研究成果を発信

国際交流共同研究センター (Joint Research Institute for International Peace and Culture) は、国際交流についての研究、活動の分析・評価ならびに国際交流技法の開発などの研究を実施し、その研究成果を広く社会に還元することにより国際交流の発展に寄与するために、国際交流基金が青山学院大学と連携・協力して運営しています。

2010年度には、「平和のための文化イニシアティブ」および「国際文化交流機関の比較研究」に関するシンポジウムなどを開催し、研究紀要『Peace and Culture』第3巻第1号を発行しました。



ニューヨーク日本文化センターにて開催された「平和と文化に関するラウンドテーブル」  
国際交流共同研究センター → <http://www.jripec-aoyama.jp/>

### 京都支部

## 多様な担い手との連携による日本文化の発信

京都支部は、関西圏のさまざまな国際交流の担い手とのネットワークを活かしつつ、海外からの留学生・研究者など外国人を対象とした日本文化紹介活動を推進しています。

和菓子の手づくり体験や、酒造りの工程見学、錦織物の工房訪問などの体験型プログラムや、能・狂言等の舞台公演、日本映画の上映会など外国語解説付きのプログラムを通して、日本文化に触れる機会を外国の人たちに提供しています。「国際交流のタベ——能と狂言の会」は1974年から実施し、2010年度で第37回目を迎え、会場は約380名の来場者で埋め尽くされました。

また、国際交流基金が招へいする日本研究者による講演会、セミナー、懇談会などを通じて、国際交流に関心をもつ市民と

の対話や交流を進めています。2010年度のフェロー講演会では、マリーナ・コワルチュク氏（ロシア）による「日清戦争期のロシアの新聞における日本観の特徴」についての講演会等を実施しました。



狂言「素袍落」茂山千五郎師  
2点とも撮影：高橋章夫



能「船弁慶」片山九郎右衛門師